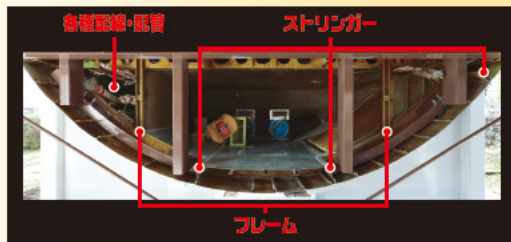


機体の構造はこうなっているよ

飛行機は機体内外の気圧差による荷重に耐えるため、胴体は円筒形になっています。構造はフレームをつなぐようにストリンガーを適切に配置されています。胴体は床により上下に区切られており、上部には操縦室、客室(または主貨物室)が、下部には脚格納部、装備品収納部、床下貨物室があります。



調布航空宇宙センター展示室

展示室では、これまでに行ってきた研究活動や現在取り組んでいる研究を紹介しています。

入館料 / 無料

開館時間 / 午前10時から午後5時

休館日 / 土・日・祝日・年末年始(12/29~1/3)

団体見学を希望される方は、調布航空宇宙センター見学担当までご連絡ください。



〈アクセス〉

- 吉祥寺駅南口下車(JR中央線・京王井の頭線)
 - /バス3番乗り場(武蔵境駅南口行)「三鷹市役所」下車、徒歩5分
 - /バス4番乗り場(調布駅北口行)「三鷹市役所」下車、徒歩5分
 - /バス8番乗り場(調布駅北口行)「航研前」下車、徒歩1分
- 三鷹駅南口下車(JR中央線)
 - /バス7番乗り場(仙川行、晃華学園東行)「三鷹市役所」下車、徒歩5分
- 調布駅北口下車(京王線)
 - /バス14番乗り場(吉祥寺駅行)「航研前」下車、徒歩1分

宇宙航空研究開発機構 調布航空宇宙センター

〒182-8522

東京都調布市深大寺東町7-44-1

TEL 050-3362-8036



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

2014年12月1T



調布航空宇宙センター Chofu Aerospace Center

YS-11 コックピット展示

JAXAでは、YS-11退役機
(機体番号YS-11-118等)
を用いて、現在進めている
研究に活用しています。

●YS-11ってなに

YS-11は、日本の技術を集めて開発された国産中型旅客機です。1965年から民間路線で運航をはじめ、2006年に運航を終了しました。短い滑走路(1200m)で離着陸ができる燃費のよい飛行機です。

●YS-11開発とJAXAの関わり

JAXA(当時:航空技術研究所)は、1961年から大規模な主翼と胴体の静強度試験をはじめ、主翼の疲労試験や胴体与圧の繰り返し荷重試験など10年間にわたり様々な試験を実施し、YS-11の開発や型式証明取得、機体の改良に貢献しました。YS-11は、50年を経過した今日も安全に飛び続けています。



主翼の疲労試験



胴体与圧繰り返し荷重試験

コックピットをのぞいてみよう!

飛行計器

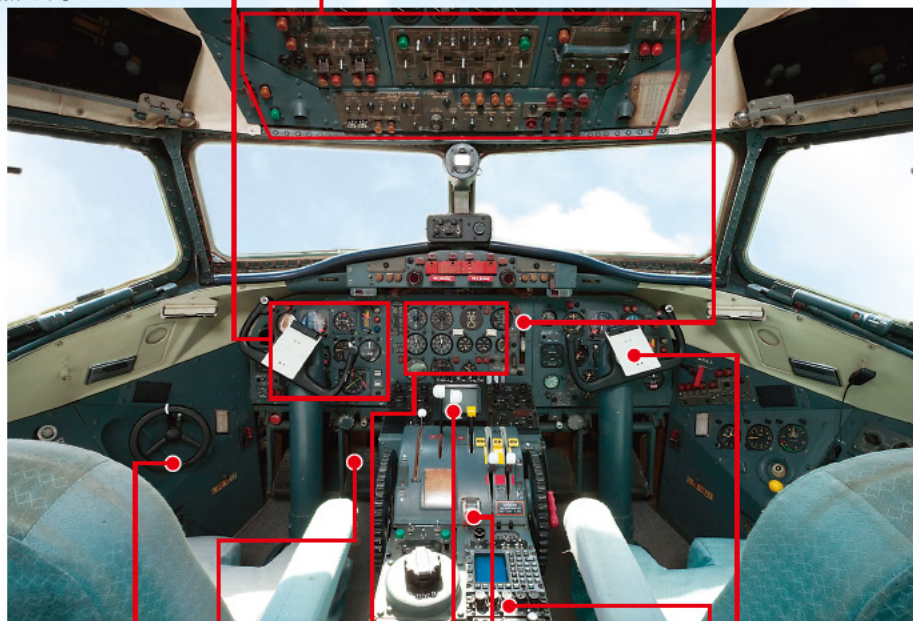
飛行機の操縦に必要な基本的な情報を表示します。計器は左から速度、姿勢、高度です。その下は、昇降計、旋回計です。

オーバーヘッドパネル

油圧、電気、燃料、圧力、空調などを整えたり、きちんと飛行するための装置です。

ランディングギアレバー

離着陸の時に、飛行機の脚を出し入れするためのレバーです。



ステアリングハンドル

地上走行中に機体の方向変換をする装置です。

エンジン計器

エンジンの状態を確認する画面です。

フラップレバー

翼の後ろに取り付けられたフラップを出し入れするレバーです。

操縦かん

飛行機を上下左右に操縦するためのハンドルです。右に傾けると飛行機も右に傾きます。

ラダーペダル

ラダー(方向舵)は、ペダルを踏み操縦します。左のペダルを踏むと、方向舵は左に動き右向きに揚力を発生させ、左に進みます。

スロットレバー

エンジンの出力を調整するためのレバーです。前に倒すと出力があがりスピードが速くなります。

自動操縦装置(オートパイロット)

離陸後、着陸まで自動操縦で飛行するために飛ぶ高度や方位、速度などを設定します。

現在のコックピットは、YS-11のように計器類が並んでいるのではなく、必要な情報はディスプレイに表示されます。ディスプレイにはデジタル化したたくさんの情報が表示されます。新機種が開発されるたびにディスプレイは大型化、多面化機能の追加等が図られ進歩を遂げています。

JAXAではより安全で効率的な運航のため、計器表示パネル(ディスプレイ)の研究も進めています。



JAXA飛行シミュレーション設備のコックピット